

【敬天新聞・記者クラブ楽屋裏座談会】

A：全国紙記者　　B：週刊誌記者　　C：民放TV記者　　D：フリー記者

——明けましておめでとうございます。今月から『敬天新聞』の軒下三寸借り受けまして【週刊・記者クラブ楽屋裏座談会】なる新しいブログを開設することになりました。「夜討ち朝駆け」の毎日、ご多忙中とは存じますが、諸般の事情で書けなかった記事、既に報道された記事の裏話、あるいは陽の目を見ることなく埋もれてしまった事件など、タブーに臆することなく談論風発、大いに内幕を暴露して戴きたいと思います。

A「昨年末以来、ポカポカ陽気の毎日でしたが、珍しく大きい事故、事件もなく穏やかな新年でした」

C「しかし、『行きはよいよい、帰りは怖い』——年初めが静かな年は、ある日突然、ドカンと大きな事故や事件が起きるから油断はできないよ」

B「天気が良いのはありがたいけど、出版業界は読者離れの北風をまともに受けっ放しで極寒状態だよ。昨年なんか、とうとう総販売額が1兆5500億円割れというからまさにジリ貧産業の典型。偉そうに他人のアラを探すどころじゃないけど、ご指名を受けたからには頑張ります（苦笑）」

D「ホント、最近は電車の中でもスマートフォンばかりで、新聞や週刊誌を読んでいる人は完全に少数派だものね。私みたいなフリー記者も段々、書ける媒体は減少しつつあり、懐状態は“ツンドラ気候”寸前です（笑）」

B「出版業界がピークだった平成8年の販売額は2兆6538億円だから、およそ45%減。ウチに限らず、他社も刷れば刷るほど赤字というのが実情だ。月刊の小説誌など完売しても10%の赤字というんだから処置なし。それでも廃刊にしないのは、メンツ大事の痩せ我慢でしかない」

A「新聞だって部数は減る一方だから、明日は我が身。他所さんのことをとやかく言えないが、確かに最近の週刊誌は、わざわざ買ってまで読もうという気が起らない薄い記事ばかりだ。読者層に合わせてるんだろうが、毎号『老人の

セックス特集』じゃ、さすがに食傷気味。電車の中で広げるのも憚られるよ」

D「つまらなさからいえば、週刊誌より新聞の方が深刻じゃないかな。ほとんどが発表モノだし、独自に取材した記事なんか皆無。況や調査報道なんか夢のまた夢。Y新聞なんか取材班より記事の“チェック班”が多いというんだから本末転倒もいいところだ（苦笑）。紙面の劣化に伴って広告だって格落ちは歴然。全面広告は、昔は紙面が汚くなるからと夕刊にしか出して貰えなかった化粧品、サプリメント類の通信販売や旅行広告が大半なんだから…」

C「そういえば、元旦にセブンイレブン限定発売と銘打って週刊ポスト、週刊現代、週刊文春が増刊号を発売していたけど、あれは何だい？」

B「自虐的な言い方だが、あれは懐かしさだけの“昭和郷愁録”。倉庫の奥から引っ張り出してきた古記事の寄せ集めだもの。言っちゃあ悪いが、いくら他誌が休みにせよ、今さら江川、江夏、金田で誰が買うんだよ。しかも売っているのはセブンイレブンだけ。紙の無駄以外の何物でもない」

D「週刊文春は『初めて女性誌をつくりました』のキャッチコピーだったけど、こんな中身スカスカのスペシャル版を発行する前に、春画掲載事件でS編集長を謹慎処分にした顛末でも明らかにすべきだと思うよ。第一、編集長が3ヶ月の謹慎処分を食らったのに、発行人にお咎めなしだなんて、どう考えてもおかしいんじゃないか（笑）」

A「新年らしからぬ湿っぽい話ばかりのついでと言っては何だが、2020年東京オリンピック・パラリンピック大会の新聞各社に対する協賛金が、全国紙で15億円、ブロック紙で10億円、地方紙で5億円と決まったんだが、知り合いのM新聞の記者なんか、『15億も出したらボーナスどころか、給料も下がるのでは?』と顔を曇らせていたけど、真面目な話、たかが“国際運動会”の報道に15億円はどうかと思うよ」

C「全国紙で15億円ですか? 全然分からないけど、ウチはいくら出すんだろう? おそらくNHKが一番多いと思うけど、そんな数字を聞いたら『オリンピック万歳!』と快哉を叫ぶのも考えものだな」

D「そのNHKですが、NHK放送センターの移転用地に絡む不動産売買疑惑発覚で、ようやく靱井勝人会長のクビが飛ぶ?との噂で持ち切りです」

B「その件に関しては、既にウチも取材チームを組んでいるし、靱井会長の“切腹”は確実でしょう。経営委員会に諮ることなく、不動産購入の窓口である子会社・NHK ビジネスクリエイトの債務保証をするのは放送法に違反するのはもちろんだが、時価200億円の土地を350億円で購入しようとするのは狂気の沙汰。場合によっては工事を請け負うT建設も巻き込んだ贈収賄事件、特別背任事件に発展するやもしれぬだけに目が離せない」

A「昨年は東洋ゴム、三井住友建設＝旭化成建材、VWのデータ偽装事件をはじめ、東芝の粉飾決算など、名だたる大企業の不祥事が毎月のように発覚しましたが、今年も同じような事件が表面化するような気がします」

D「その東芝ですが、面妖なことに、未だにほとんどのマスコミは粉飾という言葉避けて、不適切、不正というヌルイ表現を使っていますが、オリンパスのケースと比べても、その差は歴然。同じことをやらかしているのに、会社の規模の大小で『粉飾』を『不適切』に言い換えるようでは、法治国家でござい！なんて胸を張るのは笑止千万。東京地検特捜部は、さっさと事件化して然るべきでしょう」

C「ウチでも別のチームが取材に動いたんだけど、ウェスチング・ハウスの買収問題について突っ込んだ取材を敢行した途端に、官邸筋から天の声が降ってくるわ、広告代理店から『待った！』が掛かるわで、腰砕けになってしまった」

B「未だに遅々として進まないにもかかわらず、安倍首相が『福島原発はアンダーコントロール状態にある』と言わざるを得なかったように、東芝＝原発は日米問題と背中合わせのアンタッチャブルな存在なんだな」

D「それならそれで、『東芝は日米関係、軍事問題と密接な関係がある原発には不可欠の企業ですから潰せません』と言えればいいものを、調査委員会だ、ヘチマだと小手先の美辞麗句を並べるから、話がややこしくなるんだ」

A「そういえば、東芝問題が噴出した時に、政治部のデスクが『東芝の処置を誤れば安倍政権は崩壊するかもしれない』と言ってたけど、東芝問題は、単に一企業の粉飾決算云々ではなく、背後に原子力という“怪物”が鎮座しているから、白物家電やテレビ、パソコン部門は売却するとか、半導体部門は分社化するとか、一般には分かりにくい“処置”に終始しているんだろう。結論からいえ

ば、これらはすべて原子力部門を温存させるための“置石”と言ってもいいと思うな」

C「いずれは屁理屈をこねて税金を投入、社名を『東芝原子力』と変えて事実上の国営企業にするんじゃないかな」

B「原発売込みのために何度も外遊していた安倍首相のこと、やりかねないな」

D「東芝問題もさることながら、もうひとつ安倍政権崩壊の爆弾となりそうなのが、アベノミクスの失敗ではなく、北朝鮮の拉致問題だと思っています。アベノミクスなんかハナから誰も信用していないんですから、どうということはありません。それより拉致問題です。総理大臣になれたのも『私が拉致問題を片づける！』と胸を張ったからで、それなのに今は完全に失念、拉致の『ら』の字も口にしません。それなりの理由があるにせよ、こうした非人情な対応は、必ず人の恨みを買います。恨みは目には見えませんが、いずれボディーブローのように効いてきます。その辺の人情の機微が分からないのが“お坊ちゃん”の弱点なんです。拉致問題を放ったらかしにしていると、今に“因幡の白兔”のように皮を剥かれて赤裸にされてしまいますよ」

C「年頭の記者会見で24回も『チョーセン、チョーセン』と連呼していましたが、あれが北朝鮮のチョーセンだったら名宰相なんだけど、そんなことあるわけないよね（笑）」

——今日はこの辺で終わりにしたいと思います。今回は第1回ということで、いささか硬い話題ばかりでしたが、次回からはリラックスして、硬軟織り交ぜたお話を聞かせて戴きたいと思います。お疲れ様でした。